

【論文提出者】 村田 和穂

【論文題目】 The Structure of Defoe's Phrasal Verbs: An Exploration into Defoe's Language of Fiction
(デフォーの句動詞の構造：デフォーの小説言語の研究)

【授与する学位の種類】 博士（文学）

【論文審査の結果の要旨】

イギリスの文学の歴史における小説の誕生については諸説あるが、18世紀初頭の Defoe や Swift の作品が草創期の代表的作品であることは言を俟たない。そこで、筆者は、Defoe (1660-1731) を研究対象とし、小説の創生に関わる彼の作品において、どのような言語的、表現的特徴が見られるのかに着目している。すなわち、イギリス文学における小説の言語の発生と発展に関わる視点である。そのような言語的・表現的特徴は多岐にわたるであろうが、いわゆる活劇や冒険譚の面白さというものを読者に伝えるには、登場人物たちの行為、動作、所作等をいかに生き生きとリアルに描くかが一つの要点となっていると筆者は考える。そして、そのような、登場人物たちの動きを描く言語的要素の中心にあるのは文中の述語部分であることから、述語部分を形成する要素に注目した結果、Defoe の作品にはとりわけ「句動詞」(phrasal verbs: *burst out*, *tumble down*, *came running back*, etc.) が顕著に見られることを見出している。そこで、筆者は、Defoe の小説全作品を取り上げ、そこで用いられる句動詞を、統語構造及び意味的・文体的機能の観点から記述・分析している。

まず Introduction において散文や小説の言語・表現に関する先行研究を詳細に吟味し、本論文の位置づけ及び目的を明確にしている。さらに、句動詞の全体像を捉えるための章立てとしての本論文の構成について述べている。

Chapter 1 では、句動詞の統語構造を明らかにする観点から、まず自動詞機能の句動詞を扱っている。章を定動詞的使用、不定動詞的使用、副詞要素の混入、名詞への転用の4つに分け、さらに6つの下位セクションが設けられ、各項の用例を網羅的に示しながら、Defoe における自動詞としての句動詞の構造とその多様性を明らかにしている。

Chapter 2 では、同じく句動詞の統語的構造を明らかにする観点から、今度は他動詞機能の句動詞を扱っている。章は定動詞的使用、不定動詞的使用、形容詞的使用、副詞要素の混入の4つに分けられ、さらに7つの下位セクションが設けられ、自動詞の場合と同様、その構造が詳細に分類されて提示されている。他動詞機能の句動詞は、目的語を取るために、自動詞と比べてその構造がより複雑であり、用途も多様であることを豊富な例を用いて論じている。

Chapter 3 では、前の二つの章で述べられた句動詞が果たしている意味的・文体的機能に焦点を当て、心理描写としての働き、海洋用語としての句動詞の使用とその文体的効果、混成形 (*burst out into tears* タイプ) の意味的分析、小詞副詞の冗長的使用、*shut up* の反復使用と同義語の関係の5つの観点から論じている。

これらの章を通して、筆者は、登場人物の行為や動作の動きを躍動的に描くのに、Defoe がいかに多様な句動詞を形成し、それを駆使しているか、豊富な用例と緻密な分析で明らかにしている。

イギリスにおける小説の発生の問題に関わる研究として、Defoe の小説全作品について、このように具体的な言語事象を取り上げ、それを網羅的に記述・分析している前例はなく、非常に価値ある研究となっている。博士の学位論文として適格であると判断する。

【最終試験の結果の要旨】

平成 27 年 1 月 20 日（16:00～17:50）、小会議室（文法棟 2 階）にて、村田和穂氏の学位提出論文 ‘The Structure of Defoe’ s Phrasal Verbs: An Exploration into Defoe’ s Language of Fiction’（「デフォーの句動詞の構造：デフォーの小説言語の研究」）について、5 名の委員による審査委員会を開催し、審査した結果、論文の内容（別紙 1 参照）及び口述審査の結果ともに高い評価を得た。

また、1 月 31 日、文法棟 A-3 教室において開催された公開発表会においても、論文主旨を適切に纏めた発表を行い、質疑に対する応答も非常に適切であった。

以上の点から、村田和穂氏の上記論文は、博士（文学）の学位に適格であると判断する。

【審査委員会】

主査 隈元 貞広

委員 リチャード・ギルバート

委員 大野 龍浩

委員 福澤 清

委員 西楨 偉